

農産物直売所
よらん野
筑後市前津
☎0942-54-7755



マルウシ農園
牛島圭一代表
立花町

店長おすすめ 今月の旬のもの

イチゴ・キウイ・みかん



『生産者のご紹介』

「JAよらん野」では、消費者の皆様へへの安心を提供するため、生産者の方々と共に減農薬栽培に取り組んでいます。「マルウシ農園」代表の牛島圭一さんは、EM発酵という有機肥料の土壌にこだわり、野菜の甘さを引き出すとともに安心して食べていただける野菜づくりをモットーに努力されています。マルウシ農園自慢の野菜をぜひ食べてみて下さい。

釣り

大寒波と趣味

1年のうちで最も寒さが厳しい如月。各地で最低気温を更新し、降雪による事故も多発した。いかに文化文明が進化しようとも、自然には勝てないようだ。

そんな季節は、室内で過ごしたり、あるいは温泉へ出掛け体を休めるのが賢明で、健康的なのかもしれない。

だがしかし、一方で好きな事を思い浮かべると、じっとしていらなくなるのも人間のサガなのだ。

たまたま私にとってはそれが釣りであり、同じ趣味を持つ輩が世の中に沢山存在することも事実である。

そんな訳で（笑）、厳寒の2月半ばの好天の週末、鹿児島は甕島列島へと出掛けてきた。

串木野港から渡船で2時間ほど走ると、下甕島西側にある片野浦港の南磯へ降り立った。安全とわずかな釣果を海神様へ祈念しながらビールを御神酒代わりに海へ注ぐ。

本命として狙うのは冬季の石鯛で、低水温期に動ける大型の石鯛を何とか仕留めようという魂胆だ（汗）。

冬季の石鯛の餌となるのは貝類がメインで、赤貝、サザエ、ヤドカリなどを使う。当日朝の水温は海面近くで17℃、適水温とされる18℃～22℃よりは若干低いが問題はない。

午前8時過ぎ、満潮と干潮の端境期、足元の水深15m～22mの下層部20m近辺で竿先を揺らすアタリが出ると、すかさず竿先を海面に向けて次の動きに備える。すると竿先が次第に加速しながら海面に突き刺さるような勢いで引っ張られた！今だ～！！と両手で竿を起こし、リールのハンドルを巻きながら引きを堪能する。慎重に引きずり上げると2kg位のやや小ぶりだが本命の石鯛であった。

昼までに小型を1枚と、外道のウツボを数匹釣り上げ、回収の船を待つ。帰宅後、自慢の（？）包丁捌きで刺身をこしらえ、家族に振る舞う。熱燗が普段より格別美味しかったのと、海の幸を食す山の神の笑顔が見られた事が幸いであった。

さて、次は春先の離島へと目論見は出来つつある（笑）。

磯の旅人

そのうち子ども達が小学校に上がり、昼間のファンカーゴはめっきり私の仕事用の車になった。高速道路を走る事が増え、スピードを精一杯出しながら山口、九州各県を走り回ってつくれた。運転がガサツな主のせいで次第にボディは傷だらけになっていく。それでも、吹雪に吹かれる山道、大雨の高速道路、霧の中……いつも私とファンカーゴは一緒だった。

やがて、上の子は中学生になり毎日部活に励む生活。下の子は友達との遊びが忙しい。夫は単身赴任。家族揃って乗ることも少なくなった。もっぱら運転は私。痛々しいボディの傷は増えるばかりだ。久しぶりに聞いたこの呼び名。どうやら本当にこの名前だと思ひ込んでいるらしい。「パンパーゴ」の響きに、この11年が懐かしく蘇った。今では高校受験の息子、来春中学校に上がる娘、赴任先で仕事に励む夫、相変わらず高速を走り回る私と、家族はそれぞれの道を歩んでいる。けれど、家族皆が一緒に乗っていた日々があったことをファンカーゴは知っている。それだけで十分なのかもしれない。

森 志穂

楽しい仲間たち 水洗スターズ

監督 大西幸二
会長 林 慎悟

水洗スターズは、現在6年生4名を先頭に12名の部員で、大西監督の愛情溢れる指導のもと、日々の練習に頑張っています。厳しい練習の中で楽しさを感じながら、学ぶ事への感謝の気持ちを忘れません。野球を通してフェアプレー、友情、礼儀を学び、失敗を恐れず失敗後の経験を生かし、勝つ事の喜びや負ける事の悔しさの中で、心と体を鍛えています。間もなく6年生が卒部を迎えると8名の部員となりますが、6年生の思いを引き継ぎながら練習に励んでいます。少ない人数の中で希望を持ち、一人一人が大切な仲間である事を忘れず、共に喜び、共に悔しがり、共に励まし合いながら、仲間の大切さを感じて大きく成長しています。新しい仲間が増える事を願い、水洗スターズは自分を信じ仲間を信じ、感謝を忘れず、頂上を目指して頑張ります。

筑後市志の水洗小学校グランド練習しています。



市民劇団さくら座です。3月31日（土曜日）14：00よりおりなす八女にてミュージカル「徐福～すべてはひとつの命」を上演いたします。三田村市長も一市民として始皇帝役で出演されます。新八女市民約70名で初公演、初出演です。楽しく、美しく、愉快な舞台にします。是非、観に来て下さいね。お待ちしております。大人500円 小中学生300円 連絡は中村090-6772-2675



眩き

パンパーゴ

11年愛用したファンカーゴを手放すこととなった。走った距離は19万キロ。わがままな運転でよく走ってくれたものだ。新車で購入した当時は子どもが1歳と4歳。子ども達は「ファンカーゴ」と上手く言えず、たどたどしい片言で「パンパーゴ」と呼びながら家族でいろんな所に出掛けた。ソファアには折り紙やお菓子の包紙が散乱し、CDはウルトラマンだ。温泉、阿蘇、海……いつも家族とファンカーゴは一緒だった。

り。バンパーが外れて引きずりながら走ったこともある。中央線のポールに真正面からぶつかったこともある。そんな目に合いながらも必死にスピードを上げて走るファンカーゴ。何ともけなげだった。

そんな中、お別れの時がやってきた。見た目がボロボロのファンカーゴは、きつとこの後は廃車となるだろう。中古車店に向かう日、まさか自分に換わる車を見に行っているとも知らずに、いつものように張り切って走ってくれた。着いた所には年式が新しい兄弟が並んでいた。「このパンパーゴを捨てると？」と、下の子が寂しそうに尋ねる。久しぶりに聞いたこの呼び名。どうやら本当にこの名前だと思ひ込んでいるらしい。「パンパーゴ」の響きに、この11年が懐かしく蘇った。今では高校受験の息子、来春中学校に上がる娘、赴任先で仕事に励む夫、相変わらず高速を走り回る私と、家族はそれぞれの道を歩んでいる。けれど、家族皆が一緒に乗っていた日々があったことをファンカーゴは知っている。それだけで十分なのかもしれない。